

## 私がうけた「小さな親切」

長野県 広徳中学校      3年 宮下 和也

僕はある日、自分の団地にある小さな公園へ友達と遊びにいきました。すると、あるおばあさんが草取りをしていました。そのとき公園には、かなり雑草が生えていました。僕は、おばあさんが草を取っているのに遊ぶのは失礼だと思い、友達と遊ぶのをやめました。

次の日、その公園に行くと、昨日おばあさんが草を取っていたところだけきれいになっていました。おばあさんはいませんでした。そこで友達といつものように遊んでいると、おばあさんがやってきて草取りを始めました。僕たちはまた遊ぶのをやめて、帰ろうとしたそのとき、おばあさんが、

「待ってちょうだい。あんたたちが遊ぶところを見ていると、やる気が出てくるんだよ。おばあさんのことは考えずに遊んでちょうだい。」

そう言って、草取りを始めました。

そのとき僕は感動しました。団地の公園を自らきれいにしようとする気持ちは、すごいと思いました。普通なら誰かがやってくれると思い、やらない人が多いと思います。でも、そのおばあさんは違ったのです。

僕たちはおばあさんのことを考えました。そして、自分たちだけが遊ぶのはおかしいと思い、おばあさんといっしょに草取りを手伝うことを決めました。自分たちも使っている公園なのに、あまり使っていないお年寄りのおばあさんだけが公園をきれいにしようと草取りをしているのはおかしい、そう思ったからです。そしておばあさんといっしょに草取りを手伝いました。

1時間後、公園はきれいになりました。するとおばあさんが、

「ありがとね。」

と言いました。僕たちは、

「いつも遊んでいる公園なのに、草取りしないで遊ぶのはおかしいと思うので。」  
そう言って、きれいになった公園で遊ぶことができました。

それから4年。僕は中学3年生になりました。おばあさんは2年前に亡くなってしまいました。自分の限界のギリギリまで草取りをしていたと知って、僕はなんだか悲しい気持ちでいっぱいになりました。もっと早くから草取りを行って、常に公園がきれいなら、もしかしたらおばあさんは長生きできていたかもしれないと思ったからです。

おばあさんが亡くなる2週間前から、1ヶ月に1回、公園の草取りが団地の人たちで行われるようになりました。今は、小学生から幼稚園の人まで大勢の人が公園を利用して楽しんでいます。僕も草取りは、進んでこれからもやりたいと思っています。そして、もっともっと公園をきれいにしていきたいと思っています。